

「おおいた教育の日」エッセー

【中学校の部】優秀賞

私とふるさとの未来

日出町立日出中学校 2年

みやた ゆきな
宮田 幸奈

私のふるさとは大分県の日出町です。日出町は別府湾に面した町で、海と山に囲まれた自然豊かな場所です。春には魚見桜が見られ、夏は涼しい風とともににぎやかなお祭りが開かれます。秋になるとアサギマダラの群れが飛来し、冬は通学途中に見える朝日がとても綺麗です。このような四季の移ろいを身边に感じられる日出町が、私はとても好きです。

また、この町には温かい人たちがたくさんいます。地域の行事では、年齢を問わず協力し合い、子どもからお年寄りまで笑顔で楽しく過ごす姿をよく見かけます。そんな優しさにあふれた町に私は、いつか恩返しをしたいという気持ちが強くなりました。

私には将来の夢があります。それは薬剤師になることです。きっかけは体調を崩して病院に行ったとき、薬局で薬の説明をしてくださった薬剤師さんの姿でした。薬についてわかりやすく丁寧に教えてくださるだけでなく「なにか不安なことがあればいつでも聞いてくださいね」と優しく声をかけてくれました。その言葉に私はとても安心しました。そのとき、薬剤師という仕事は薬を渡すだけでなく人に寄り添い、支える仕事であると思いました。そして、私も将来、薬を通じて人の役に立てるようになりたいと思うようになりました。

薬剤師には知識と責任感、そして相手を思いやる心が必要だと考えます。私は理科や数学を中心に、これからも一つ一つの勉強を大切にしながら、夢に向かって努力していきたいと思います。

そして、薬剤師として働く場は、できれば日出町がいいと考えます。今、薬の管理や通院に不安に感じている人は少なくありません。私は将来、訪問薬剤師としても活動したいと考えています。通院が困難な方や在宅で療養されている方の家に訪問して、直接薬を渡したり、服薬方法を丁寧に説明したりすることで、日出町の人々の健康を支えたいと思っています。

このようなエッセイを書いてみて、「ふるさとの未来のために自分にできることはなにか」と考えられたことがとてもよかったです。普段の生活の中では、なかなか改まってふるさとのことを深く考えることが少ないので、文章にすることで、改めて自分がどれだけふるさとの方々に支えられてきたのか気づくことができました。

けれども未来は誰か一人の力で大きく変わるものではないと思います。将来、ふるさとのためになにかしたい、と考え行動する人が少しでも増えていけば、きっと町は明るいものになるはずです。私自身も、薬剤師という夢を実現させ、地域の方々を支えたいと思います。

これからも、自分にできることをひとつひとつ積み重ね、ふるさととともに成長していくよう、一生懸命に勉強し、自分とふるさとの可能性をさらに広げていきたいと思います。